

素敵なおプログラムをめぐって 奥田佳道

モーツァルト (1756~1791)

ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 第1番 ト長調 K.423

愉悦の楽の音が開演を彩る。

モーツァルトは1783年、結婚の報告も兼ねて故郷ザルツブルクに一時帰省した折に、親友のミハエル・ハイドン(有名な作曲家の弟)が、かの地の大司教から委嘱された6曲の「ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲」のうち、4曲を書いたところで体調を崩したことを知る。

それで2曲を恐らくは大急ぎで作曲し、ミハエルを助けることにした。二重奏曲第1番ト長調と第2番変ロ長調K.424はこうして生まれた。

モーツァルトはこのデュオ曲に思い入れがあったようで、父に楽譜をウィーンに送るよう頼んでいる。また生活のこともあったのだろうが、1788年には「二重奏曲、4曲はミハエル・ハイドン、2曲はモーツァルトによる」楽譜の販売を予告している。

第1楽章:アレグロ

第2楽章:アダージョ

第3楽章:ロンド (アレグロ)

ロッシェニ (1792~1868)

チェロとコントラバスの二重奏曲 ニ長調

低音の「饗宴」に酔いしれる。

イタリア各地を経てパリで活躍するようになったオペラの神様ロッシェニが1824年、32歳の年に紡いだ、極めて愛すべき秘曲を聴く。これ、チェロとコントラバス業界ではよく知られたデュオ曲である。

名曲誕生の背景に人あり、名手あり。曲は、ロンドンの銀行家筋からの委嘱で書かれた。音楽家のパトロン(支援者)でコントラバスをたしなんだというその委嘱者、歴史的な演奏家ドメニコ・ドラゴネッティ(1763~1846)の弟子だった。

ヴェネツィアとロンドンを拠点としたドラゴネッティは、ハイドン、ベートーヴェンとも交友したコントラバスの偉人で、1813年の暮れにはベートーヴェンの交響曲第7番の初演にも参加している。

そんなドラゴネッティからコントラバスを習っていたロンドンのいわば財界人が、ロッシェニに二重奏曲の作曲をもちかけたという次第。私的な初演では、委嘱したそのお金持ちがコントラバスを、先生のドラゴネッティがチェロを弾いたようである。

しかしこのデュオ曲は、プライベートな贈り物でもあったのだろう。ロッシェニが亡くなった後、幻の名曲となる。何と1960年代の終わりまで楽譜が出版されなかったのだ。

第1楽章:アレグロ

第2楽章:アンダンテ・モッソ

第3楽章:アレグロ

モーツァルト (1756~1791)

きらきら星変奏曲 八長調 K.265

このメロディを知らぬ者はいない。「きらきら星」の童謡としても「ABCの歌」としても。

オリジナルは、モーツァルトの時代、パリで親しまれていたシャンソン「ああ、お母さん、あなたに申しませう（ああ、ママに言うわ）」。作者不詳ながら1770年代から歌われていたようである。恋人を想う心を、娘が母親に打ち明ける歌だ。

モーツァルトはウィーンを拠点とするようになった1781年頃に、この微笑ましいメロディを用い、12の変奏曲を書く。ピアノ学習者（モーツァルトのお弟子さん）の上級エチュードとして作曲したのか、予約演奏会での自作自演を考えていたのか、例によって創作の背景は良くわかっていない。

華やぎも戯（たわむ）れも、変幻する調べも素晴らしい。これぞアマデウスの世界。

シューベルト (1797~1828)

ピアノ五重奏曲 イ長調 「ます」 D.667 Op.114

音楽交流NPOクウォーター・グッド・オフィスと深い絆で結ばれているトップ・アーティストが勢揃い。まさに＜サロン楽の極み＞だ。顔ぶれも曲目も。

音楽の都ウィーンに生まれ育った希代の旋律「作家」フランツ・ペーター・シューベルトは1819年夏、22歳のときに旅先で知人のリクエストに応じ、ピアノと弦楽のための五重奏曲を書く。

弦楽四重奏とピアノによる五重奏曲ではなく、低音の要コントラバスを交えた五重奏は異彩を放つものの、実は19世紀初頭のサロンや家庭音楽会では人気の演奏スタイルだった。

ベートーヴェンとほぼ同世代の作曲家でピアニストとしても知られたフンメル（1778-1837 現在のスロヴァキアの首都ブラティスラヴァ出身）も、コントラバスを交えた五重奏曲を作曲または編曲している。シューベルトの「ます」は、さてフンメルの五重奏曲を得意としていたアンサンブルのために書かれたか。

楽章は全部で5つ。第4楽章が、自作の歌曲「ます Die Forelle 英語名：The Trout」（1817年作曲）の主題に基づく変奏曲となっている。

歌に満ちあふれた創りは申すに及ばず、大胆極まりない転調と変奏の筆致を愛でたシューベルトに魅了される。終わりそうで終わらない執拗なフレーズ（失礼！）や回想、ハンガリー風の躍動するロンドもこの作曲家の美質となる。彼は、ウィーン城壁の内外で演奏されていた舞曲や東欧の音楽が好きだったのである。

恒例の初夏のチャリティ。対話・交歓の美学に酔いしりたい！

第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ

第2楽章：アンダンテ

第3楽章：スケルツォ、プレスト

第4楽章：主題と変奏、アンダンティーノ～アレグレット

第5楽章：アレグロ・ジユスト（正確なアレグロで）